
夢

梨音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢

【著者名】

Z65600

【作者名】

梨音

【あらすじ】

友だちの家に泊まりに来たある日、私は夢を見た。

ふと気がつくと、海の中にいた。

と言つても、人魚になつて優雅に魚と戯れていた、なんていうんじゃない。私は人間のまま、黒く寒々しい海で、必死に、そして無様に、足りない酸素を求めて喘いでいた。

一応昼間なのだろう、辺りは薄明るいが、空には灰色の雲が私に圧し掛かるようにして重く立ち込めていた。波は荒れていて、ゆらゆらと絶えず揺れている水面から弾ける零や泡が、目や口に流れ込む。立ち漕ぎで出来る限り頭を高くあげて何か？まれるものを探すが、浮き輪がわりになりそうな大きな板はおろか、ごく細い小枝すら見つからない。服は私を沈めようとするかのように重く纏わりつき、絶えず動かし続けていた足だけが唯一、私の体の中で熱を発している。口を開ければ、目を開ければ、けして美味とは言えない塩水が飛び込んでくるのは明らかなのに、開けておかずにはいられない。はあはあと荒い息の合間にも肺は必死に酸素を求めていて、それがどんどん私の呼吸を早くする。ああ、新鮮な、空気が、欲しい。しかし肺に流れ込むのは結局のところ海水ばかり。目にも汗なのか海水なのか、とにかく塩水がじわりと染み込む。ああ、目が痛い。足が、もう駄目だ。あちらから大きな波がやって来る。私はきっと、あれに飲み込まれてしまつんだろう。飲み込まれて、飲み込まれて、飲み込まれて

誰かに名を呼ばれたような気がして、私ははつと目を覚ました。

背中が汗でじつとりと湿っているのを感じる。ああ、そうか、私は夢を見てたんだ。ほつとするような、拍子抜けするような、とにかくすごい虚脱感が押し寄せてくる。寝息を感じて振り返ると、理沙

子ちゃんが半分口を開けて、気持良さそうに眠っていた。理沙子ちゃん家に、泊まりに来てたんだっけ。あまり思い出せないままに左手を伸ばして、田の前にある彼女の流れのよつた黒髪にそっと触れる。普段はなかなか触れさせてくれない、滑らかなそれ。理沙子ちゃんは口の中で何かを小さく呴いて、じりりと私に背を向かた。ああ、もう大丈夫だ。唐突にそんなことを思つて、そして途端に眠くなる。布団を肩まで引き上げて、丸くなつて目を瞑つた。理沙子ちゃんのバーラのような甘い香りが、淡く漂う。彼女が優しく包み込んでくれているような気がして、私はふたたび、眠りの中に落ちていつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6560o/>

夢

2011年10月7日20時58分発行